

たぐろ

TAKUSUI
No. 658

8

August, 2011

発行 財兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



明石市立播陽幼稚園 手作りうちわ展の作品（兵庫県水産会館にて）

Report

「浜を守れ!」全国漁業代表者緊急集会 開催

NEWS

**県漁青連による「婚活パーティー」開催!
豊漁祈願祭・兵庫県漁協組合長会議開催**

「浜の秩序を守れ!!」

～水産特区構想・JF全漁連が緊急全国代表者集会開く～

去る6月25日に公表された国の東日本大震災復興構想会議の答申で示された「水産特区構想」。この内容は“浜の秩序”の崩壊を招きかねないとして、JF全漁連は7月6日(水)に東京・千代田区のコービルにて「漁業者が一体となった復興を目指す緊急全国漁業代表者集会 ～水産特区構想によって浜の秩序を崩壊させないために～」を開催しました。兵庫県からはJF兵庫漁連 山田 隆義会長をはじめ系統団体役員が参加、全国から約230名が集まりました。

会議冒頭、JF全漁連 服部 郁弘会長は「漁業権管理は、資源と漁場の持続的利用を可能にするもので世界に誇るべき制度」と挨拶されました。続いて行われた意見表明では、まずJF岩手漁連 大井誠治会長が「大震災の復興に官民一体となって取り組ん

でいるところに“漁業権の開放”を持ちだしたことに強い憤りを感じる」と述べられ、JFみやぎ 阿部 力太郎理事長は「JFが漁業権管理を行っていることで資源と漁場の持続的利用を可能にしており、操業上のトラブルも回避できている。企業参入による新たなトラブル発生が懸念されることに加え、企業は採算が取れなくなると撤退するが、漁業者に撤退などあり得ない。多くの問題を抱えた水産特区を実現するより、一日も早く国、県、系統、漁業者が一丸となって復興に取り組むべきだ」と述べられました。

集会の最後には、JF全漁連 佐々木 新一郎副会長が決議文を朗読、満場一致で採択された後、参加者全員で「漁業者が一体となって復興するぞ! 浜の秩序を守れ!」とシュプレヒコールを行いました。



挨拶に立つJF全漁連 服部会長

水産特区構想とは

民間資本が漁協に劣後しないで漁業権を取得できる仕組み。つまり、現在、漁業権は漁協によって管理されているが、他の民間も漁協と同様に直接免許を受けることができるというもの。宮城県 村井知事が提唱し、6月25日の国の東日本大震災復興構想会議に「水産特区構想」が盛り込まれ、今後の動向が注目されている。

実効施策に向け ワーキングチーム設置 ～瀬戸内海関係漁連連絡会議～

JF兵庫漁連指導部

瀬戸内海に面する各漁連会長が一堂に会する「瀬戸内海関係漁連連絡会議」が、7月12日（火）神戸市内のホテルにて開催されました。当日は、瀬戸内海関係10漁連（漁協）の会長並びに役職員の参加がありました。

冒頭、幹事県であるJF兵庫漁連の事務局より開会が告げられ、当会議の代表幹事を務めるJF兵庫漁連 山田 隆義会長より「環境変化などによって漁業生産が大きく減少し瀬戸内海の漁業が厳しさを増している。関連産業も多岐に及び漁業の衰退は我が国経済にとって大きなマイナスとなる」との挨拶がありました。続いて、来賓のJF全漁連長屋 信博常務より東北地方太平洋沖大地震の被災地の復興等の状況を交えた挨拶が述べられ、出席者の自己紹介の後、JF兵庫漁連 山田会長を議長として議事に入りました。

まず、JF兵庫漁連 山口 徹夫専務より140万人の署名とともに、平成19年10月25日に特別要望を提出後、停滞状態となってしまう「瀬戸内海再生法（仮称）」の実現に向けた取組みの経過についての報告があり、続いて、各



府県漁連（漁協）からの漁場環境等に係る課題に関する報告ならびに来賓等から意見が発表されました。

各府県の報告を基に意見交換をした結果、瀬戸内海の生産力は一様に低下している状況にあることが再認識されことを踏まえ、JF兵庫漁連 山田会長より、瀬戸内海関係漁連が相互に連携しながら、今後の瀬戸内海の環境改善に取り組んでいくことが確認されました。更に、瀬戸内海環境保全知事・市長会議への要望等の取りまとめ等、今後の具体的な取組方策を検討するため、この連絡会議に事務レベルでのワーキングチームを設置することについて提案し、出席者の満場一致で了承されました。

第89回 国際協同組合デー兵庫県記念大会を開催

農協、漁協、生協などの関係者約620人が集い、兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫JCC）主催の第89回国際協同組合デー兵庫県記念大会が7月1日（金）神戸市立東灘区民センターうはらホールで開催され、協同組合運動の前進を誓い合いました。

第1部の記念式典では、兵庫県生活協同組合連合会の本田英一会長理事による主催者挨拶の後、来賓の兵庫県金澤和夫副知事、神戸市市民参画推進局大谷幸正局長から祝辞をいただきました。続いて、兵庫県漁協女性部連合会の森武美会長が「食の安全・安心」・「環境の保全」を盛り込んだ兵庫JCC宣言を朗読し、満場一致で採択されました。

第2部では、2012年国際協同組合年全国実行委員会委員の浜美枝氏が「心地よい暮らしを守るために～自然と共に生きる」と題して記念講演を行いました。参加者一同、各協同組合で置かれている立場の違いはあるが、それぞれの立場で自然との共生について考え、取り組みをしていかなければならないとの思いを共有する場となりました。



兵庫JCC宣言を朗読する
兵庫県漁協女性部連合会
森武美会長



記念講演をする
浜美枝氏

2012年は国際協同組合年



NEWS

～明石海峡大橋を眺めながら“婚活”～ 県漁青連が消費者交流会を開催

JF兵庫漁連 広報部

漁師による出会いを……。『たくましい海の男たちと!! 明石海峡大橋の眺望を楽しむ豪快な漁師飯 & バーベキュー婚活パーティー at 明石』と題し、7月16日(土)に兵庫県水産会館屋上で県漁青連(大角生馬会長)主催の消費者交流会が開催されました。



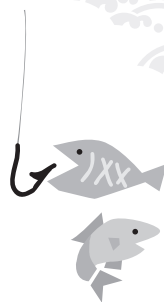
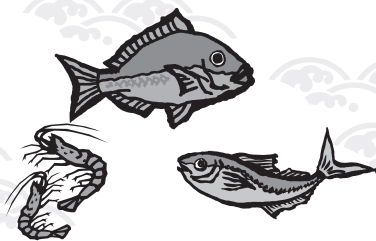
挨拶に立つ大角会長



きれいな景色と美味しい料理に話も弾む!?

参加者は、彼女募集中の青壮年部のメンバー20名と、県内外より集まった女性20名。

自己紹介の後は、青壮年部のメンバーが自ら持ち込んだ地元の海の幸を紹介し、生かしたまま持ち込まれたガザミやタイ、そして豪華なバーベキューに、女性陣からは歓声があがっていました。



ガザミ釣り大会で盛り上がっています

美味しい海の幸を味わい、ガザミ釣り大会で盛り上がったころには、だんだんと夕暮れになり、美しい月も雰囲気をも盛り上げる中、見事5組のカップルが誕生。夏の始まりにぴったりのイベントとなりました。カップルが成立したみなさん、おめでとうございます!(富永)



海の幸がいっぱい



夏恒例、グループリーダー研修会開催 ～3つのテーマについて活発な議論～

但馬地区漁協青壮年部連合会

但馬地区漁協青壮年部連合会による平成23年度グループリーダー夏期研修会が、総勢45名の参加の下、7月22日（金）新温泉町のホテルで開催されました。この研修会は、沖合漁業に従事する部員が多い当地区では、沖合漁業が端境期となるこの時期に毎年開催しているもので、知識習得のほか、部員間の情報交換や懇親の場となる夏恒例のイベントになっています。

山中康正会長の主催者挨拶、三木 宗和兵庫県但馬水産事務所長等からの来賓挨拶に続き、研修に入りました。研修は3テーマあり、「日本海で漁獲が急増したサワラの生態」として県農林水産技術総合センター 西川 哲也主任研究員、「獲れたサゴシをどう利用するか？～原料特性とその加工方法～」で県北部農業技術センター 岡田 佑太研究員、最後に「アカガレイ増殖場調査と造成適地について」として県農林水産技術総合セン

ター 大谷 徹也主任研究員が講義を行いました。近年、但馬地区で多く漁獲されるサワラの講演では、講師と参加者との活発な質疑応答が交わされました。



熱心に講義を聴く部員

「平成23年度漁船保険事務研修会」を開催

兵庫県内海漁船保険組合

兵庫県内海漁船保険組合は「平成23年度漁船保険事務研修会」を7月5日（火）神戸市のホテルで開催しました。研修会には内海地区の40JFの組合長、担当役職員及び県市町担当係官、系統団体代表者ら約150名が参加し、当組合 山田 隆義組合長の開会挨拶に続き、県水産課 藤澤 崇夫課長及び漁船保険中央会 三宅 哲夫

副会長が挨拶。その後の賞状授与伝達式では、水産庁長官表彰として、無事故漁船所有者の部で神戸市漁協所属「第二こうべ丸」が受賞された他、漁船保険中央会長の部門毎の表彰が行われました。

研修会はまず、事務局から平成22年度事業報告、23年度事業計画及び事業推進方策について説明し、各漁協との協力体制の確認が行われました。

また、県漁港課 坪内 稚和課長が「東北地方太平洋沖地震と兵庫県における津波対策について」、漁船保険中央会 三宅 哲夫副会長は「東日本大地震による漁船被害と漁船保険の対応」の震災関連の2テーマで講演がありました。続いて当組合所属の組合員とプレジャーボートとの衝突事故に伴う訴訟事案として戸田総合法律事務所 戸田 満弘弁護士と山本 剛也弁護士から「詐病による“訴訟詐欺”全面勝訴事案の顛末」というテーマで、神戸地裁、大阪高裁における全面勝利に導く論争の過程についての講演があり、JF組合長・担当役職員等は熱心に聴講していました。

閉会に当たり、当組合 前田 吉計副組合長は、参加の皆さんへ労いと御礼、漁船保険事業の今後の支援につき理解を求めて終了しました。



「豊漁祈願祭」・「兵庫県漁業協同組合長懇談会」・ 「漁人会(すなどりのかい)」を開催

JF兵庫漁連指導部

平成23年7月26日は暑く長い一日でありました。

午前11時から「平成23年豊漁祈願祭」が、県内のJF組合長、系統団体の代表、行政機関の代表等約70名の参加のもと執り行われました。本年は神戸市垂水区の「海神社」で開催され、漁業操業の安全とともに水産業の振興繁栄を祈願しました。

豊漁祈願祭終了後に続き、会場を舞子ビラに移し、「平成23年兵庫県漁業協同組合長懇談会」が開催されました。懇談会は近年問題となっている2つのテーマに関する講演を中心に進められました。

1つ目のテーマは豊かな海を取り戻すために我々は何をすべきか、今後どの様な取組を進めるべきかについて「豊かな海に向けた取り組みについて」と題して京都大学大学院 藤原 建紀教授にご講演いただき、今後参考になる様々なアドバイスを頂きました。



1日に3つの異なる行事が開催されることは滅多になく、有意義で充実した1日であったのではないのでしょうか。この1日が、今後の水産業の発展の一助となることを心から願います。

もうすぐ解禁 豊漁はみんなの願い



2つ目のテーマは、TPPに関する基本的な情報を得ることを目的として「TPPとはどのようなものか」と題して農林中金総合研究所 原 弘平取締役基礎研究部長にご講演いただきました。今回のテーマはいずれも共に漁業者の営漁活動に直結する課題であり、参加者は真剣に聞き入っていました。

また、講演に引き続き、JFグループ兵庫水産政策協議会より「平成24年度農林水産施策の推進等に係る政策提案」について説明があり、この提案事項をもって県に要望活動することが諮られ、全会一致で承認されました。

組合長懇談会終了後は、「兵庫漁人会(ひょうごすなどりのかい)」が開催されました。井戸 敏三県知事を囲んで、県内水産業の今後の振興策等について、JF組合長と大いに懇談を深めることができました。



「タコの目が怖い!!」 ～明石市小学校食育教室から～

(財)兵庫県水産振興基金

小学生に地元明石の魚を調理して食べてもらい、広く水産業や水産物について知ってもらおうと明石市から委託を受け、JF兵庫漁連が6月から10月にかけて計60回、食育教室を行っています。

今回紹介するのは7月13日(水)、明石市立朝霧小学校の3年生2クラスで行われた「タコさばき教室」で、講師はJF兵庫漁連の講習を受けた広瀬さんと本井さん。1クラスで約30人の児童を相手に、明石の魚やマダコについて分かりやすく話をしたあと、いざ調理実習。講師はスミ抜き、塩もみ、カットと実演しながら注意点を確認し、その後調理に入りました。生のタコを近く



“塩もみ” ガンバッティマス

で初めて見る子どもも多く、「わぁ～」、「きゃぁ～」、「ぬるぬるして気持ち悪い」、「タコの目が怖い!」と一部の男子は大騒ぎ。一方、女の子は「スミが



講師の手さばきにみんな注目!

取れない」と言いつつ、臆することなく作業していました。包丁を持つ手もごちなかったのですが、所定の時間になんとか調理が出来ました。試食はあちらこちらで「美味しい!」との声が上が



美味しそうに茹であがりました!

り、みんな残さず食べました。また、一部の茹でたタコは給食時に空揚げにして出されました。最後に担任の先生が「夏休みには“魚の棚”に行って、家でタコを茹でましよう」と呼び掛けると、「は～い!」とみんなよい返事!

魚や海の話に加え、調理体験を行うことでより一層、海・自然に対する理解が深まったと思います。

(西詰)

干しダコ出来た!! ～「夏休みジュニアアカデミー」開催～

8月3日(水) 兵庫県水産会館において、明石市生涯学習センターの「夏休みジュニアアカデミー」が開催されました。今回はその1回目の「干しダコ作り」。講師は、JF兵庫漁連指導部 宗和 貴光統括代理が務めました。



当日は絶好の“干しダコ日和”。午前の部・午後の部併せて24組の親子が参加しました。講習が始まると、タコの下ごしらえ・捌き方など、皆さん興味深く講師の手さばきを見つめていました。干しダコ作りに準備されたのはもちろん活きのいい地元「明石ダコ」。初めて作るという参加者ばかりで悪戦苦闘していましたが、最後には立派な“干しダコ”を完成させており、出来た干しダコは夏の日差しを浴びて風に揺れていました。さらに、翌週の講座では、この干しダコを使ってタコ飯などの料理に挑戦しました。子供たちにはよい夏休みの思い出となったようです。

タコつぼで運だめし!? ～明石タコつぼオーナー制度～

JF江井ヶ島・JF兵庫漁連 広報部

兵庫県明石市
江井ヶ島漁業協同組合の

明石タコつぼオーナー募集!!

JF江井ヶ島の取組みとして数年前から行われていた「明石タコつぼオーナー制度」は、今年からJF兵庫漁連 広報部も活動に携わり行われています。オーナー募集では、テレビ・新聞で取り上げられたためか、希望者は順調に集まり、募集〆切日の7月15日には合計で212名の「タコつぼオーナー」が誕生し、タコつぼの番号が記載されている「タコつぼオーナー証」が渡されました。このオーナー制度は自分の番号のついたタ

コつぼを4回引上げてもらい、運が良ければ何匹かを手にすることができるというもので、1度もタコが入らなかった場合でも1匹を保証してもらえ

す。なお、タコの入っている確率は約10～20%ということで、さながら夏の「運だめし」といった感じでしょうか。

最初のタコつぼ投入は7月27日(水)に



引上げ当日はテレビの取材もありました。

行われ、8月1日(月)の第1回目の引上げが行われました。この日は、遠方からオーナーの方がみえたり、テレビの取材があったりする中、最大で980gのタコを筆頭に、平均サイズは約500g、タコつぼ212個中30個から30尾が捕れました(小ダコは放流したので、タコつぼにはもう少し入っていました)。タコが揚がったオーナーの方にはJF兵庫漁連から連絡をし、皆さん喜ばれていました。

今後、8月12日(金)まであと3回の引上げが行われます。オーナーの皆さんはJF兵庫漁連からの連絡を心待ちにされていることでしょう。



1回目の引上げのため出港です

ご報告

スプリングキャンペーン'11から 水色の羽根募金へ寄付しました

..... JF兵庫信漁連

いつもJF兵庫信漁連をご愛顧いただき、誠にありがとうございます。

今春実施しました「スプリングキャンペーン'11」では、8億7,000万円の目標を大幅に上回る17億2,500万円の実績を賜りました。ひとえに皆さまのご協力のおかげであることと感謝申し上げます。

なお、当キャンペーン時にお知らせいたしましたとおり、皆さまからお預かりしました定期貯金額の0.01%をJF兵庫信漁連が負担し、財団法人漁船海難遺児育英会に寄付することとし、去る6月

10日(金)農林中央金庫にて、JF兵庫信漁連 山田峰人会長が財団法人 漁船海難遺児育英会 佐藤信三専務理事に寄付金172,545円を贈呈いたしました。佐藤専務理事は「東日本大震災より奨学生数の急増が予想される中、皆さまからいただいた寄付金で、一人でも多くの子どもたちを支援できるように大切に使っていきたい」と述べられ、感謝状をいただきました。

今後もJF兵庫信漁連をご利用いただきますよう、よろしく申し上げます。

JF共済 チョコ

「40歳過ぎて健康に自信がない」

そんな方にお勧めしたい保障です

平成23年
7月1日
新登場



保障プラス貯蓄を
考えている方に

まーぱー まいぷらん

特別養老共済

40歳から75歳までの方がご加入でき、病気やケガの保障を受けながら、70歳または80歳で満期共済金を受け取りいただけるプランです。

一生涯の安心を
求める方に

まーぱー まいぷらん プラス

特別終身共済

40歳から75歳までの方がご加入でき、万一の保障も病気やケガでの入院・手術保障も一生涯（80歳までの保障にすることも選択可）続くプランです。

共済期間中に万一の保障額が段階的に増えていきます！

ご契約から経過年数に応じて、死亡共済金が加入額と同額まで段階的に増えていきます。

健康に不安があっても大丈夫。簡単な告知でご加入できます！

通院中でも病歴があっても、健康状態等の4つの質問に該当しなければご加入できます。注①

病気での入院、手術をご加入後すぐに保障します！

持病が悪化・再発した場合も保障します。ただしご加入後1年以内の病気での入院・手術保障は50%となります。注②

病気やケガでの入院は日帰り入院より保障。5日未満でも5日分です！

入院日額5,000円の場合なら日帰り入院でも5日分の25,000円をお支払いします。注②

検査入院などの治療を施さない入院は対象外となります。

ケガでの通院、5日以上なら初日からお支払いします！

ケガ入院後の通院も含め、5日以上通院したらその分をお支払いします。注③

注①
次の告知に該当しなければご加入できます。

現在、病気や外傷により安静療養中ですか。

今後、入院または手術の予定がありますか。
過去5年以内に、悪性新生物(がん・肉腫・白血病をいいます。)または脳腫瘍で治療・投薬をうけたこと、または医師に診断されたことがありますか。

過去2年以内に、病気により入院し、または手術を受けたことがありますか。

※お答えいただく告知は加入内容によって異なります。

※お申込みの際は、申込書で告知の内容をご確認ください。

注②
医療共済(疾病入院条件付支払特約)付加の場合

注③
通院特約(疾病通院不担保特約)付加の場合



上記はチョコー（普通厚生共済）の概要について説明しています。ご契約の際は重要な事項が記載されている「契約概要」および「注意喚起情報」をご一読いただくとともに、「ご契約のしおり・共済約款」を必ずご覧ください。

詳しくはお近くの組合へ

JF共済 <http://www.kyosuiren.or.jp/>

大輪田塾だより

7月の大輪田塾は普段の兵庫県水産会館での座学と趣きを変え、
神戸市中央卸売市場と福井県・京都府で行いました。

～神戸水産物卸協同組合と 「これからの魚食普及活動の姿」について対談～

7月4日(火) 神戸市兵庫区の神戸市中央卸売市場にて、神戸水産物卸協同組合青年会員を中心とした16名と、大輪田塾生らが対談方式で魚食普及について考える会を開きました。

テーマは「これからの魚食普及運動の姿について」とし、同組合の藤原 敬之副理事長、山本和浩青年会長から「女子大生料理クイーンズコンテスト」や小学校での鯛の捌き方教室の事例の紹介があり、また、JF兵庫漁連 田中 久善広報部次長からSEAT-CLUBの取組みや、小中学校での料理教室の実践事例の報告がありました。これを話題に参加者は2テーブルに分

※女子大生料理クイーンズコンテストとは、神戸近郊の6大学の女子学生が数人でチームを結成。神戸市中央卸売市場内の店舗で予算1万円の制限の中、食材の購入、調理(コース料理)を制限時間内で行い、その料理の出来栄を競ったもの。



各テーブルで活発な議論が行われました

かれて議論しましたが、参加者からは「調理方法を教えるだけでなく、魚や漁場・浜の情報も併せて提供する必要がある」、「魚離れと魚嫌いは違う。きちんと伝えれば魚は食べる」等の意見があり、参加者は意見発表に耳を傾けていました。また、同組合青年会の皆さんからは、浜や漁場など漁業の現場を見たことがない会員が多く、大輪田塾生は神戸市といった大規模な市場流通の話に関心があり、お互いがさまざまな情報交換を併せて行い、終了後は「またこのような場を持ちたい」と次回開催を望む声が多くありました。



藤原副理事長による事例紹介の様子

～平成23年度 大輪田塾県外研修～

7月26日(火)・27日(水)には県外研修を舞鶴・小浜方面で行いました。

初日は、福井県小浜市の小浜製網(株)に漁業用ロープの製造過程を見学に行きました。同社 野村常務よりロープの基礎知識の講習を受けた後、工場見学に移りました。この会社は原糸加工からロープ製品まで

手掛けるメーカーで、見学中には主力商品のほか、マニラロープの原料からの製造工程も見学できました。見学の最後は、単一素材のロープと、同社開発の高強度の複合素材ロープの切断試験を見学し、ロープの切れる音に驚きながらも、同社の技術力の高さを見ることができました。



講義をされる野村常務



ロープ切断試験の様子



ほぼ全工程を見せていただきました



「だいせん」の機関砲の説明をきく
(写真のものは自動追尾装置付きで
100発百中とのこと)



同保安本部 中村部長の挨拶
(漁業者にエールも送られた)



「だいせん」をバックに記念撮影

翌日は、JF京都漁連を訪問。同漁連が開設している市場見学と、販売事業の取組みについて話を聞きました。アジアで初めてマリンエコラベル(MSC)を取得した「沖合底曳網のズワイガニ・アカガレイ漁」について、また“京のブランド産品”に認定されている「丹後トリ貝」の養殖について説明があり、塾生からさまざまな質問がありました。また、見学した市場では、兵庫ではあまり見かけない魚や大きな天然岩ガキなどが並べられており、塾生は興味深く見ていました。知っているようで知らない事も多く、塾生は多くの知識を習得したようです。



殺菌水に浸かる“天然岩ガキ”
(写真は約5年物とのこと)

最後は、関西電力(株)舞鶴発電所に立ち寄り見学を行いました。平成17年に完成した石炭を燃料とした火力発電所で、燃焼効率を向上させた最新の発電設備や世界最大級のコンクリート建造物である“石炭サイロ”を備えていました。再利用の木製チップを石炭に混ぜる方法や、燃焼時の“ばい塵”も100%リサイクルを達成するほか、施設用地を有効利用し敷地の緑を残すなど環境に配慮した施設でした。東日本大震災の後、我が国のエネルギー政策について議論が高まるなか、塾生は電力事業について理解を深めることができました。

研修先の宿舎では、普段ゆっくりと話をする機会の無い塾生間でもさまざまな交流があり、相互の親交が深まった、充実した研修でした。



180万Kwの発電量を誇る
(主に京阪神地区に送られる)



大きさに驚いた“石炭サイロ”
(直径60m、高さ80m)



巨大な“揚炭機”
(1時間に2000tもの石炭を陸揚げ)



活気のあるセリ



塾生からは活発な意見が

第55回 船員労働安全衛生月間

平成23年9月1日～9月30日

「一度!!
「あせらす」
「無理せず」
「油断せず」

【主唱】国土交通省・水産庁
【協賛】船員災害防災協会・地方(地区)船員労働安全衛生協議会



かわいい“うちわ”展示会 ～明石市立播陽幼稚園の園児らが作成～

節電が叫ばれ、別の意味でも“暑い夏”の到来を予感させる7月。JF兵庫信漁連では、兵庫県水産会館の1階ロビーにおいて、会館近くの明石市立播陽幼稚園の園児たちによる“手作りうちわ展”を開催し、うちわを制作した園児を招いた見学会も行いました。

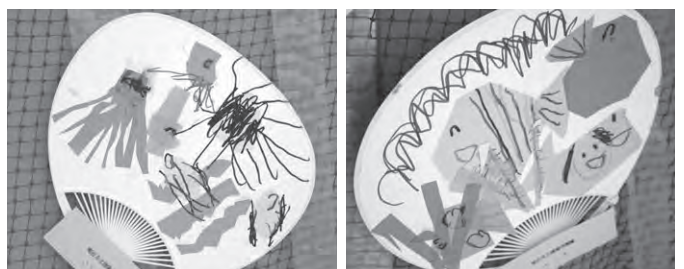
見学会では、JF兵庫漁連による漁業のお話があり、さらにはイカナゴの新平くん・新子ちゃんも登場し、新平くんたちは、自分の作ったうちわを見てもらおうという、園児たちにひっぱりだこでした。

園児が作ったうちわは皆、個性豊かで海やサカナ、ヨット、そして太陽と夏の海をモチーフに、楽しそうな絵が描かれて並んでいました。

なんだか涼しい風が届いたような気がしました。



かわいらしい“うちわ”がいっぱい



楽しそうな絵です

但馬の自慢をたじまんまで ファーマーズマーケット開店

JAたじまは6月17日、ファーマーズマーケット「たじまんま」をグランドオープンさせた。大型の直売所の開設は、JAたじまでは初めてのこと。

朝9時の開店には約200人が行列を作り、店内にはトマトやキャベツ、ニンジンなどの野菜や、パンなどの加工品、但馬牛肉などが並べられ、開店の時を待った。出荷者の代表やJAたじまの役員が、開店記念のくすだまを割ると、待ちわびた人たちが店内に入り、早速、買い物を楽しんだ。たじまんまでは現在、約400人の生産者が出荷者として登録。新鮮で安全・安心な食材を消費者へ届けている。近くに住む主婦は、「品ぞろえの多さと新鮮さに満足できた。この満足感がいつも感じられるよう、期待している」と話していた。

たじまんまの名称には、「但馬の大地で採れた特産を、まるのまんま、そのまんま取り扱う」という意味が込められていて、金子洋一代表理事組合長は、「生産者の自慢の品、但馬の自慢の品を出荷してもらい、開店することができた。農業の力で但馬を元気にしたい」と話していた。



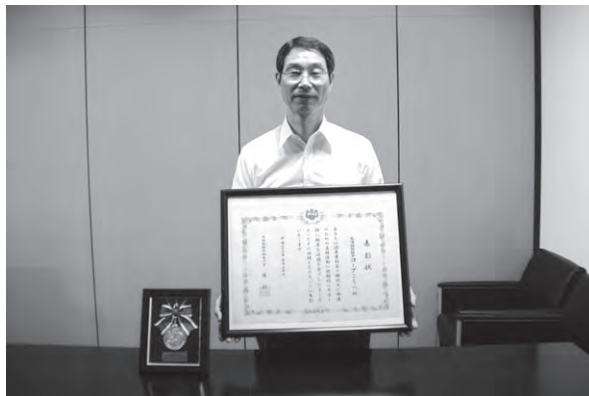
グランドオープンの様子

消費者支援の取り組みが評価され コープこうべが 内閣府特命担当大臣表彰 を受賞

5月30日（月）、コープこうべが今年度の「消費者支援功労者表彰」内閣府特命担当大臣表彰を受けました。

これは、消費者利益を守り、高めるために各方面で尽力した個人に贈られる賞として1985年に創設され、今年度からは消費者団体・グループも表彰の対象となりました。コープこうべが長年にわたり、食品添加物や品質表示などについて自主基準を設けて運用してきたこと、緊急時の生活物資確保と供給に尽力してきたこと、行政の行う消費者教育の推進に協力してきたことなどから、神戸市から推薦いただき、今回の受賞となりました。

表彰式は首相官邸で行われ、秦正雄常務理事が出席。蓮舫内閣府特命担当大臣（現首相補佐官）から表彰状と盾を受け取りました。





旬に想う

写真と文
遊方子

芳名簿にご署名を…

◆催しもの案内の小冊子が駅の改札口に並べてあり、自由にお持ち下さいとある。情報時代の申し子のように、美術館や博物館の催しと劇場や寄席の案内も掲載されている。水彩画の展示を観たいと思ったが、会場の位置が判らない。所在地はご存じだろうと見込んでの作成らしいが、無知な輩もいるのだと観光案内所へ立ち寄って尋ねた。地図で丁寧な説明を受け、難なく会場へ辿りついたが、受付で芳名簿にご署名と言われ、住所氏名を書いた。書かずに入場する人も随分と多い。何かに悪用されるのではと、警戒する様子を感じる。

◆通常生活で、氏名を書いたりサインする事は極めて少ないが、結婚式や葬儀では署名を強要される。自署をする時は、かなり緊張してしまうため、芳名簿の前に後ずさりしたくなる人も多い。ペンは良いとしても毛筆には困る。少しだけ筆書きが出来るせいで、職場では会議用の次第や張り紙などを書いたが、一筆目を下ろす時は、大いに緊張したものだ。気持ちを乗せるには時間が要る。専門の書家は白紙の前に瞑想するというが、それは芸術として心の高ぶりを求めているのだろう。凡人は、ただ勢いに任せて一気集中あるのみだ。芳名簿を切っ掛けに、習

字を始めたりする人もいるが、長続きはしないものである。

◆奈良へ日帰り旅をした。由緒ある寺院が多く、見学には事欠かない。修行僧の道場という寺院では、寺務所受付に芳名簿が置いてあった。他人の書いた書面は興味津々なもので、遠方の人が堂々とした字で署名していたり、細い連綿体の達筆があったりする。自署と比較し、我流でまァいいかと拙劣さを妙に満足したりするが、署名にはアリアリと性格迥々のように思う。松本清張の推理小説『球形の荒野』は、主人公の寺院巡りで始まり、唐招提寺の芳名簿に死亡した笹の叔父の筆跡を見つける。不思議に思い人に話した事から事件へと発展する。スリリングな展開を見せ、戦争末期の外交官の悲劇を描いている。

◆初めての食堂だったが、テーブル毎にノートが置いてある。パラパラと頁を繰ると、客が寄せ書きした書き込み帳で、随分と大勢の人が書いていた。殆どが匿名や仮名で、美味しいと拍手を送る内容もかなりあるが、「麺が細い」とか「汁が熱過ぎる」と苦情を述べたものが大半であった。名前無しで書く場合、無責任な文章になり易いが、真面目に店の設えや商品の味を評した文には、楽しい雰囲気もあり、書き手の気持ちが伝わってくる。文章はこれではなくてはなるまい。乱暴な字よりも、見惚れるように達筆な署名なら見るだけでも楽しい。



大輪田塾 第7期生 入塾募集の締切迫る!

将来、JF組織を支えていける人材育成を目的に開講された「大輪田塾」では第7期入塾生を募集しています。締め切りは8月末日と迫ってきています。入塾希望をされます方はお早めにお申し込み下さい。

- ◎**応募資格** ① 原則として、漁業歴10年以上 かつ45歳未満
② 原則として、JF関係役職員歴10年以上 かつ45歳未満
のいずれかに該当する者で、所属する組織代表者の推薦を受けた者
- ◎**在籍年限** 原則2年(最長3年)

募集は8月末に締切、その後、面接を行い審査委員会の選考を経て、10月に入塾式を行います。積極的な応募をお待ちしています。

問合せ先(事務局)：(財)兵庫県水産振興基金 TEL 078-919-1331

表紙の言葉



手作りうちわ展(明石市立播陽幼稚園の園児たちの作品)

色紙を張り付け、思い思いに絵を描いた“手作りうちわ”。うちわ(団扇)の歴史は古く、今の形の原型になったのは室町時代後期、明治時代には現代のように「広告」としての役割も持つようになったそうです。でも、子供たちの展示されている“うちわ”は、海を題材にたくさんの人や魚が描かれています。本来の“風を起こす”という機能を使うときに、水に関連した絵はさらに涼しくなるような気がします。大震災以降、節電に対する関心が高まり、扇風機が飛ぶように売れたとか。扇風機もいいですが、“うちわ”に涼しげな絵を描いて、風を楽しむのも良いかもしれませんね。